



あゆみ

No. 151
 令和 1年12月20日
 編集 発行： 荅山寮・第二荅山寮
 天草市本町下河内 680
 TEL 0969-22-5339・0969-22-1766
 FAX 0969-22-5090



**令和初のクリスマスバイキング
 みんなで食べて
 美味しかったね!**

『地域貢献』

施設長 鮎田 一夫

令和元年も押し迫ってきましたが、皆様も忙しい年の瀬をお過ごしのことと思います。荅山寮・第二荅山寮でも、今年の大きな行事は残すところ餅つき一つになりました。帰省ができる利用者の皆さんの中には、もう帰り支度をしたくてたまらなさそうになさっている方も見受けられます。毎年見られる今頃の風物詩です。

さて、先日、全国障害者支援施設部会に出席してきましたが、そこでの議論の中心の一つが地域貢献でした。荅山寮がこの地に始まって今年で五十二年になります。地域の方々にはこれまでも多くのご迷惑をお掛けしてきました。先日も散歩の途中で不安定になった利用者の方が、庭先の植木鉢を割ってしまったというハプニングが起きました。が、こちらの謝罪を快く受けて下さいました。私達の仕事は、地域の皆様のご理解抜きには成り立ちません。少しでも地域にお返ししたいという気持ちと、障害者や施設を理解していただきたいという気持ちから、これまでもいくつかの活動をしてきました。地域のお宮敷地や川の清掃、行事へのお誘い、陶芸教室の開催、地域のサロンの

お手伝いなどです。しかしやはり十分ではありません。特に今課題と考えているのが、地域のニーズに合った貢献が足りていないということです。その反省から、昨年度から地域の区長様、民生委員様、公民館長様等とお話しする機会を設けていただいております。その中から挙げてきたニーズを少しずつ実行に移しています。今年から始めたことは、月に一度の神社の清掃に参加させていただくこと、地域のサロンの活動に陶芸を取り入れていただいたこと、地域の空き缶を定期的に回収すること、「あゆみ」を地域の各家庭に配布すること、管理栄養士に栄養指導の話をさせていただくこと等です。それでもまだ、もっと差し迫ったニーズがあるのではないかと考えられます。福祉には障害、高齢、児童等の分野があり、その中では障害は地域との密着度が低いと言われていますが、これからは、分野を横断し地域をも巻き込んだ共生社会が主流になってきます。そもそも福祉に境界などないはず。五十二年という歴史はある意味私達の頭を硬くしています。柔軟な思考と行動力をもって、地域の皆さんに実のある貢献ができるような活動を展開していかなければなりません。年が改まる時の新鮮な気持ちをもって仕事に当たりたいと思います。

サービスの現場より

『事務所便り』

管理課長 大塚 伸二



早いもので令和元年もあと半月となりました。事務所では年末調整の処理に取りかかりました。所定の源泉徴収税額表によって所得税及び復興特別所得税の源泉徴収をすることとなりますが、その源泉徴収をした税額の一年間の合計額は、給与の支払いを受ける人の年間の給与総額について納めなければならない税額（年税額）と一致しないのが通常です。一致しない理由は、給与の変動、扶養親族の異動、保険料控除等その人によって異なります。このような不一致を精算するため、一年間の給与総額が確定する年末にその年に納めるべき税額を正しく計算し、それまでに徴収した税額との過不足額を求め、その差額を徴収又は還付し精算する手続きです。

今年に関しての変更はありませんでしたが、来年は給与所得控除の十万円引き下げ、基礎控除（配偶者、扶養控除、勤労学生等）の十万円引き上げに伴い税額表の改正が行われます。今回の改正も控除対象配偶者、扶養親族を有する方には良い改正となっています。年末調整は、一人一人の申告により税額計算を行いますので、申告漏れの無いよう情報提供を行っていききたいと思います。

『担当利用者への取り組み』

支援員 原田 愛海



この職場に入ったばかりの時、一番苦労したのは、どう接したら分かりやすいか、分かってくれるか、どこまで支援すればいいのかということでした。基本的な知識・技術を持っていたとしても、利用者との信頼を持つていなければ何もできないことを知り、まずはコミュニケーションをたくさん取ることを目標としました。コミュニケーションを取ることで、相手の気持ちや、やりたいこと、好きなことなど、相手のことを理解することができました。中には難しい方もいますが、周りの上司や先輩にアドバイスをもらいながら実施しています。

私には、二人の担当利用者があり、その方にとって何が楽しいのかを考えながら支援し、やったことのない体験や、興味もてるものを活動として行っています。一緒に活動をして、楽しい姿を見ると、周りまで楽しくなり支援しやすかったと感じます。

今後、利用者の身の回りはもちろんのこと、一人一人、利用者のレベルを生活の中でみつけだし、利用者のできることを引き出していきけるような支援をしていきたいと考えています。そのためにも、まず苦手を作らず、一人一人と向き合い接していけるよう取り組んでいきます。

『担当利用者への取り組み』

支援員 沢村 仁美



私が担当させていただいている利用者さんは、来年初古希を迎えます。笑顔が素敵な方で皆さんから愛されています。

まず、歩行に関してですが、担当を引き継いだ頃は手繋ぎで道面歩行を自力で歩く事が出来ていたのですが、ここ一年の間に歩行力の低下が見られる様になり、途中で足が止まりその場で座り込むようになることが頻繁にありました。そこで空の車椅子を他の利用者さんに押ししてもらい、座り込んだ際は車椅子に座ってもらうことで、一緒に歩行に参加してもらっています。その他にも自ら車椅子を職員と一緒に押し疲れてきたら、同様に車椅子に乗って歩行に参加をして貰っています。

次に食事についてです。始めの内は、自分でしっかりと食べる事が出来ていましたが、最近では食事の前に機嫌が悪くなる事が多く見られています。その場合は、棟内の写真を見る、時間を区切りソファやベッドで休んでもらう、職員と共に棟内を歩行するなどして気分転換を図っています。その日になが合っているのか、効果が出ているのか手探りの状態で支援をしています。また、食事の際にはマントーマンでゆっくり咽せる事が無く、美味しく食事をして貰えるように支援しています。

今後の目標としては、本人さんの笑顔が沢山見られ、家族の方からも第二茶山寮で良かったと思ってく頂けるよう、第二の職員全員で協力しながら、支援を行っていききたいと思います。

研修人権倫理委員会について

研修委員長 船岡 樹里



研修委員会は「人財育成を
行う」を重点目標に様々な研
修に取り組んでいる委員会です。いつも施設長
が「職員は財産である」と言われているので、人
材ではなく人財を使用させて頂きました。特に
力を入れている研修は、年二回行っている人権
研修会です。他施設長やご住職、元校長の方等
をお呼びして、時にはグループワークを取りれ
て講演していただいています。今までに、障が
い福祉の歴史から現在に至るまでの話や、まず
は自分を知る事の大切さ、命の大切さ、チーム
力の大切さのご講話等頂きました。研修が終
わった後には、職員から「自分を見つめ直せる
良い機会になった」「明日から実践して行こう
と思います」等の声や職員同士言葉使いに注意
し合う場面も観られる事がありました。育てる
だけではなく、自らも育つという力を身につけ
てもらえるように今後も人権研修会を行って
きたいと思っています。

質の高いサービスを提供し、多様なニーズに
対応する為、職員ひとり一人のスキルアップが
必須条件になると思います。しかし、スキルア
ップしても、個々の職員がバラバラでは良質の
サービスを提供する事は出来ません。ワンチー
ムとなる事で最も良質なサービスが提供出来
ると思っております。又、今年度の重点目標に挙
げた「標語による意識付け」が図れるよう、毎月
の標語を決め、職員室に掲示を行っています。
これからも、他職種との連携を密に取りお互い
の強み弱みを知り、認め合いながら優しく手を
差し伸べていけるような職員に育って、荅山寮
の「財産」になつて貰えればと思います。

管内研修会について

支援主任 株野 勝



当施設 荅山寮・第二荅山寮
においては、毎年五回程度管内
研修会を実施しており、その内二回は人権研修を取
り入れています。今年度四回目の管内研修は、十月
十八日(金)に長崎県サントピア学園の施設長吉岡健
仁先生を講師としてお招きし、「今こそ、原点復帰
福祉の心」と題して、ご講演頂きました。印象的
なお話の一部をご紹介します。

日本における障害者福祉の歴史を辿ると、古事記
神話にまで遡る。その中に出てくるイザナギノミコ
トとイザナミノミコトが最初に生んだ子供は全身麻
痺の未熟児であったが、後に恵比寿という名の神と
して復活。江戸時代に於いては、徳川將軍九代目家
重は言語障害を伴う脳性麻痺・十三代目家定は、重
度心身障害者であったと言われていた。明治に於い
ては、知的障害を持っていた仙台四郎が、「福の神」
として奉られるようになったという話であった。こ
れらは、各々の時代において障害者も社会の一員と
して見事に同化して生きていく証でもある。現代に
於いても、障害者が社会を構成する一員である事を
忘れてはならない事は言う迄もない。健常者とか障
害者とかの括りではなく、互いに社会の一員である
という当たり前の事に立ち返る、まさしく原点復帰
させられるお話を伺う事が出来ました。荅山寮・第
二荅山寮・グループホーム各々の利用者の方が、社
会を構成する一員である事を各々の職員が認識し、
互いに認め合う事で虐待を未然に防止出来る職場環
境へと繋がるよう日々精進したいと思っております。吉岡
先生、すばらしいお話をありがとうございました。

熊本県障害者芸術展見学

支援課長補佐 橋口 敬



十一月五日に熊本県立美術館
分館に荅山寮、第二荅山寮の利
用者十名が、自分達の出品した陶芸品や貼り絵、
書道等の作品を見に行きました。

会場には熊本県下から応募された、知的、精
神、身体に障害がある人達の作品が所狭しと展
示しており、プロの作品かと思われるようなも
のも沢山ありました。展示作品の多さと、クオ
リティーの高い作品を見て、皆さん驚いていま
したが、自分の出展した作品を見付けると嬉し
そうな顔をして職員を呼び、食い入るように眺
めていました。記念に残そうと、持参したカメ
ラで展示作品と並んで写真を撮る人、自分の作
品だけでなく、気に入った作品があると、カメ
ラに修め自分の次回作の参考にしたと更なる
制作意欲が湧いた人、自分の作品が展示してあ
るだけで満足している人。それぞれ感じ方は違
いますが、作品展を見に行けてとても良かった
との声が全員から聞かれました。

今回、様々な障害を抱えている人達の作品を
見て、作品展で入賞したり、作品を見に来た人
達に感銘を与えたりする事はとても難しく、作
品作りにおいても、もっと時間を掛けて取り組
む必要があると感じました。来年も芸術展への
出品を考えていますが、今年より更に良い作品
ができるようサポートしながら、普段あまり絵
を描いたり、やきもの活動に参加したりしない
人達が、出展を目標に取り組めるような事が出
来ればと考えています。

みんなで旅行!楽しかったね!!



「日帰り旅行実施について」

今年度も利用者の希望や状態に応じて島外島内、天草市内と一泊旅行を計画、実施しました。体力や移動能力、精神状態、食事形態等で旅行に行きたくても行けない利用者がたくさんおられます。特に旅行の醍醐味である食事が一番の問題です。そうした社会状況の中、ソフト食を提食してくれるレストランを発見しました。それは上天草市にあるリゾラテラスです。初めての試みでありましたが、レストランの職員と何度も検討を重ね、ソフト食対応利用者を日帰り旅行に参加して頂く事が出来ました。リゾラテラスのレストランでは、ロコモコを注文しました。見た目も味も普通食と全く同じで、とても美味しかったです。又、嚥下にも全く問題なく、安全に食べる事が出来ました。参加者の「うまかー」と笑っている姿がとても印象的であり、楽しい旅行になったと思われれます。来年度は社会資源を多く活用してより多くの利用者が参加出来るように取り組んで行きたいと考えています。



「はばたき・はちまん合同沖縄旅行」

十二月六日から二泊三日沖縄旅行に参加しました。一日目は、スーパージェット見学・ガンガラの谷ツアーでした。エイサー見学では、太鼓を担いでの迫力ある演舞に皆さん感動されていました。

二日目は、お菓子御殿・美ら海水族館等を周り、夕食は三線ライブショーを見ながら沖縄料理を堪能されました。二日間あいにくの雨で移動が大変でしたが、楽しい思い出が出来ました。



「大分一泊旅行」

十一月七日から一泊二日での大分旅行に行ってきました。一日目の水族館うみたまごではショー見学やヒトデに触ったりと普段体験できないことばかりでした。

二日目は、いいちこ日田蒸留所を見学し、焼酎が出来るまでを勉強することが出来ました。帰寮時にはリゾラテラスでの食事皆さん楽しそうにしていらっしやうり、同行した私自身も楽しむことが出来ました。



「大矢野方面一泊旅行」

十月八日から九日の日程で大矢野方面の旅行に行ってきました。一日目はみすみ花の学校を見学し、ホテル松竜園海星に宿泊。温泉にゆつくり入り、夕食は海の幸に舌鼓を打ちながらカラオケを楽しみました。二日目は藍のあまくさ村でお土産を購入し、イオン天草店で買い物をして天草プリンスホテルで昼食を堪能しました。ゆつたりとしたスケジュールで利用者の皆様の体力に負担を掛けず楽しんで頂けました。



「市内旅行」

九月二五日、二六日に市内旅行に行きました。私は初めて参加させて頂きました。アレグリアガーデンズ天草に宿泊し、夜の宴会では美味しい懐石料理を食べたり、職員の余興、カラオケ大会をし、利用者も職員も盛り上がり上がっていました。二日目はイオンにて買い物をし、利用者それぞれ欲しい物を買ひ、アイスを食べたりと満足そうにしておられました。最後まで笑顔で、楽しそうな利用者の表情を見る事ができ、私も元気をもらいました。



啓明会秋祭り

昨年は8月に啓明会夏祭りとして開催していましたが、例年の猛暑による熱中症や食中毒の危険性を考慮し、本年は10月26日11時から15時に啓明会秋祭りとして開催致しました。天候に恵まれ穏やかな気候であった為、利用者様に会場でゆっくり過ごして頂けました。アトラクションではKダンスの皆様やフラダンスの先生方が会場を盛り上げて下さいました。更に角田事務員が津軽三味線を披露してくれました。また、本年は稷南中学校の生徒さん14人がボランティアとして参加し、バザーのお手伝いやゴミの清掃、景品交換所のお手伝いをして頂きました。地域の皆様や御家族の皆様にも足を運んで頂き、利用者の皆さんも、ゆっくり楽しむことが出来て、良い秋祭りとなりました。



やったー! 良かったー!!



みんなで作良し♪

創立記念交流会

11月16日は芥山寮創立52周年でした。今年の創立記念交流会では、毎月お世話になっているフラダンスの先生方をお招きし、フラダンスの披露をして頂きました。又、フラダンスサークルが今年で20周年を迎えたので、先生方に感謝の気持ちを込めサークルメンバーで作った色紙、花束、記念品をプレゼントさせて頂きました。その他に職員出し物では、男性職員は今年盛り上がったラグビーのハカ、女性職員はフラダンスに挑戦し沢山の拍手を頂きました。利用者の方、ご家族、職員、皆で楽しい時間を過ごすことが出来ました。



フラダンスサークル活動祝20周年
感謝の気持ちと込めて



男性職員による
ラグビー・ハカ

【新利用者紹介】



白石 明菜さん

十一月一日より、第二荅山寮を利用していただいています。いつも進んでお手伝いをしてくださっています。これから一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

【退職職員紹介】

十一月三十日付けで、第二荅山寮支援員の緒方俊則さんが退職されました。

約九年間にわたり施設の為、利用者さんの為に勤めて下さいました。今後の緒方さんのご多幸とご活躍を祈念しております。本当にお疲れ様でした。

「第十六回天草大陶磁器展」

十一月一日から五日、県内外の百六の窯元が大集合しました。会場は天草市民センター体育館で五日間、二万人を越える方達が県内外から見に來られ、「荅山焼」も出店し好評でした。又、来年に向けて作品作りを行ってるところです。

「第十一回陶芸教室合同展示会」

十一月二日から四日同会場の会議室にて実施しました。一般の方を対象に、年間二十回ほど行っている陶芸教室の発表会です。天草市のケーブルテレビにも放映され、好評でした。



シリーズ1
日常生活の風景



山元 勝信さん

「準備してくるね。」と声を掛けてくださいます。利用者の皆さんのためにと取り組まれている姿が、とてもかっこいいと思える一コマです。その他にも、オープンカフェの店員をして下さったり、働きの勝信さんです。



中田 哲也さん

毎朝、食堂にて利用者の皆さんのお茶を湯呑に入れてもらっています。

早番の職員が準備に行く時に、「一緒に行くのか！」と声を掛けていただき、責任をもって積極的に行って下さりとても頼りになります。



＜行事予定＞

十二月

- 二六日 餅つき
- 二七日 御用納め
- 利用者外出
- 帰省日

一月

- 元旦 初詣
- 四日 御用始め
- 帰寮日
- 七日 鬼火焚き
- 七草がゆ

＜編集後記＞

私がこの施設に勤めてもうすぐ半年、暖冬と言われて今年の冬もクリスマス飾りの明かりで夜の施設を照らしています。

あゆみの編集に携わらせていただいて今回で三回目になります。普段事務職の私は、このあゆみが出来上がって、読むのを毎回楽しみにしています。私が普段目にするこの出来ない利用者さんの新しい姿を見ることが出来るからです。利用者さんの楽しそうにしている姿や頑張られている姿を見ると、今まで以上に頑張ろうという気持ちになります。この気持ちを今後も忘れることなく、施設のため、利用者さんのために努力していきます。インフルエンザが流行する時期になりました。皆様、予防をしっかり行い、体調には十分に配慮されて新年をお迎え下さい。

